



ふ れ あ い
市長室



南あわじ市長 守本 憲弘

自粛緩和は喜ばしいことですが、引き続き油断なく感染予防を！

4月7日から2カ月近く続いた新型コロナウイルス感染症にかかる緊急事態宣言が兵庫県、大阪府、東京都などを除く39県で5月14日に解除され、残りの都道府県についても、5月末を待つことなく、解除基準に照らし、可能であれば解除する考えが示されました。21日の政府発表を受け、兵庫県においても市民生活や経済活動を徐々に再開する動きに入ってくると考えています。

一方で、長期間に及ぶ外出自粛や休業要請によって、市民の皆さま、各産業の皆さまも大きな影響を受け、疲弊されている方もおられます。本市では4月27日に、総合相談コールセンターを設置し、1日に300件を超えるお問合せやご相談に対応させていただくことができました。少しでも皆さまの安心につながったのではないかと思います。特別定額給付金については「市民の皆さまへの給付を1日でも早く」と職員一丸となって取り組んだ結果、5月末時点で、市全体の約9割の方々に振り込みを完了することができました。今回の迅速な給付については、多くのお褒めの言葉やお手紙をいただきました。こういった機会に皆さまからいただく励ましは、職員には何より力の源になります。心からお礼申し上げます。

自粛緩和の方向性は、地域経済活動の再開・復活に向けた動きという点で喜ばしいことです。市内事業者の皆さまが集まって立ち上がったネット通販事業「旬の美味しい島食

新型コロナウイルス感染症対策本部会議の様子



材おすそわけ」プロジェクトでは、今が旬の島食材を存分にご堪能いただけます。この機会にご注文されてみてはいかがでしょうか。市もこのプロジェクトを支援しています。なお、参加事業者も随時募集しています。興味のある事業者の方は、今月号広報の22頁をご覧ください、ぜひご参加ください。

さらに、新たな施策の一つとして、宿泊や飲食など、市民の皆さま向けの振興策も予定しています。また、自粛緩和にあわせて再開する各種施設では、検温や消毒など、感染予防の徹底を支援すべく、業界団体とも協議を重ねています。

一方で、今回の感染拡大については、第2波があることも想定し、油断なく備えていく必要があります。市民の皆さまにおかれましては、密閉・密集・密接の3密を避け、こまめな手洗いや消毒に努め、人混みではマスクを着用することや毎日の検温、熱や咳などの異常があれば、むやみに外出しないなど、引き続き十分な感染対策に取り組んでいただきますようお願いいたします。

6月に入り、梅雨入りを控える時節となりました。昨今のゲリラ豪雨の多発や大型台風の襲来などの異常気象に備えておくことも忘れてはなりません。市においては、通常の備えに加え、避難所における新型コロナウイルス感染症対策についても、万全を期することができるよう準備を進めています。

市民の皆さまには、引き続き、ご不便をおかけする部分も多々あるかと存じますが、一丸となってこの苦境を乗り越えてまいりましょう。市といたしましても、職員が全力で対応しています。どうぞよろしくご厚意申し上げます。

春の叙勲と褒章

令和2年春の叙勲・褒章が4月29日付で発令され、南あわじ市内からは3人が受章されました。



春の褒章 藍綬褒章

保護司
ひぐさ あきお
日種 顕夫 さん (津井)

日種さんは、昭和62年に淡路保護区保護司会三原地区会の保護司に就任されました。以来、33年間の長きにわたり、保護観察活動を行っており、相手の話をじっくり聞くことを心がけ、犯罪や非行をした人の更生を支援されています。



春の叙勲 瑞宝単光章

元日本郵政公社職員
かがわ けいじ
香川 恵司 さん (志知)

香川さんは、昭和43年に阿万郵便局に入局。業務の統合で南淡郵便局に配属となり、長く集配業務に従事されました。その後、洲本郵便局の郵便課で課長代理を務めるなど、平成17年の退職まで郵政業務に尽力されました。



春の叙勲 旭日双光章

元淡路信用金庫理事長
しまだ たけじ
嶋田 武司 さん (倭文)

嶋田さんは、昭和38年に淡路信用金庫に入庫し、11支店と本店営業部を歴任されました。平成13年から役員となり、理事長を4年、会長を2年務め、昨年6月に退任。阪神淡路大震災の際は、被災地の復興を金融面で支援されました。



オンライン授業開始

本学では、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言発令に対応し、春学期の授業をオンライン(遠隔)授業で5月7日より実施しています。キャンパスの講義室を使用した対面授業を実施した場合の感染リスクについて検討を重ね、学生および教職員、地域の方々の健康と安全を第一に考え、この形態での

授業開講としました。

また、教員および事務室より学生に対して、3密を避けること、不要不急の外出をしないこと、自身の行動が感染を拡大させてしまう可能性があることについて、電話や電子メールを使用して再三にわたり指導を行っています。新入生は、3月末から4月上旬にかけて実家から南あわじ市内の下宿に入居し大学での新生活に備えてきましたが、講義室での授業やサークル活動など普通の大学生活を経験できていません。9月初旬からの講義については講義室での通常授業、本来の学生生活を送れるよう本学といたしましても感染リスクの軽減に努めてまいりますので、市民の皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

ボランティアの手作りマスク
社協から市に400枚寄贈

市内の小中学校や保育所などで役立ててもらおうと、南あわじ市社会福祉協議会から、ボランティアたちが手作りした布マスク400枚を市に寄贈いただきました。同社協は、新型コロナウイルスの影響によるマスク不足を少しでも解消できればと、ボランティアを募集。5月15日時点で、延べ194人の市民らが縫製や材料の提供に協力し、3264枚のマスクが完成しました。マスクは市への寄贈のほか、市内の子どもや高齢者など、希望者にも無償で配布されました。



守本市長に手作りマスクを渡す社協の阿部昌弘会長(左)と仲山さん(中央)

ボランティアとしてマスクを作製した仲山恵里子さん(北阿万)は「マスク不足の中、自分にできることがないかと思って作りました。たくさんの方に使ってもらえれば」と話していました。

マスクの寄贈
ありがとうございます

- ◆淡路共正陸運株式会社 (本社・洲本市)・4000枚
- ◆マルシヨウ運輸株式会社 (複列)・5000枚
- ◆堀建設株式会社(阿那賀)・5000枚
- ◆淡路三原ロータリークラブ(市)・4000枚
- ◆江本美琴さん(賞集)・500枚
- ◆大阪広域生コンクリート協同組合淡路ブロック(洲本市)・2000枚
- ◆真言宗淡路青年教師会(洲本市)・800枚
- ◆保育所などの近隣の人からも、園児らへ手作りマスクが届いています。